令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	NPO 法人山形県リサイクルポート情報センター		
事業名	酒田港でのリサイクル物流の活性化（酒田港の新たなる飛躍に向けたリサイクル物流の取組み）		
助成事業区分	団体支援助成事業		
団体の所在市町村	山形県酒田市宮海字南浜１－５０	事業費	1,337,752 円
		うち助成金額	950,000 円
事業実施期間	令和７年５月２８日～令和８年３月３１日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

当NPO法人は、国土交通省、山形県、酒田市など関係機関と連携し、酒田港の活性化とリサイクルポート機能の向上を目的に活動しています。本事業では、酒田港の役割やリサイクルの重要性を広く発信するとともに、県民や企業による港湾利用の促進を図り、酒田港の機能強化を通じて地域経済の活性化と持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

（実施内容）

当NPO法人は、主に酒田港がリサイクルポート指定を受けた優位性を活かしながら、山形県内の経済発展のため、山形県内から発生するリサイクル品の広域販売・処理促進（ビジネスマッチング）に向けた事業を行っております。私たちは県内外の様々な分野のリサイクル関連事業者と共同して、リサイクル品がうまくビジネスとして展開される事業活動により、長期的に継続可能な循環型社会の構築を目指すことを目的としました。

① 山形県内外への酒田港利用PR。（物流拡大）
② 山形県内における循環資源のリサイクル物流情報の調査、実情把握。（情報収集）
③ 山形県内外におけるリサイクル品の営業支援。（販路拡大）



【写真①の様子】



【写真②の様子】

事業の成果

１．山形県内外への酒田港利用PR（物流拡大）

（１）今年度は酒田港見学ツアーガイドサービス事業を行いました。加えて、「第12回酒田港国際資源循環フォーラム」を開催しました

ａ．酒田港見学ツアーガイドの実績　令和７年度実績　実施件数　84団体1,524名

ｂ.酒田港国際資源循環フォーラムの実施

参加人数：　54名（内オンライン参加者　8名）

２．山形県内における新たな循環資源のリサイクル物流情報の調査、実情把握（情報収集）

① リサイクルポート推進協議会主催の港湾見学会への参加(石狩新港、苫小牧港)

② リサイクルポート推進協議会広報部会参加(令和7年度4回、内1回はオンラインにて参加)

③ リサイクルポート推進協議会主催リサイクルポートセミナーへの事務局参加

④ リサイクルポート四港勉強会への事務局参加

３．山形県内外におけるリサイクル品の営業支援（販路拡大）

酒田共同火力発電株式会社および東北電力株式会社能代火力発電所で発生する石炭灰（フライアッシュ、クリンカアッシュ）のリサイクル活用について、行政および民間企業への販路拡大支援を実施しました。

（１） フライアッシュを再生砕石としての活用

・フライアッシュをセメント等と混合し、土木資材として再生した製品を、製造企業と合同で販路拡大およびリサイクル量の増加を図りました。

（２） クリンカアッシュを砂代替品として活用

・酒田共同火力発電株式会社および東北電力株式会社能代火力発電所で発生するクリンカアッシュについて、主に砂代替品として、道路用路床材および土地造成盛土材として、行政および民間企業への販路拡大を実施しました。

特に、能代火力発電所のクリンカアッシュについては、船舶で能代港積込し、酒田港揚げの荷役計画から出荷まで担当しており、酒田港でのリサイクル物流の活性化に貢献しております。

４，酒田北港緑地展望台指定管理。

今後の展望

酒田港の利用促進とリサイクル関連産業の振興は、企業活動の活性化や雇用創出を通じて、山形県内経済の発展に寄与します。また、循環型社会の形成や地域企業の競争力向上にもつながる重要な取組です。今後は、企業間のビジネスマッチングや情報共有を促進し、酒田港を核とした持続可能な産業基盤の構築と地域経済の活性化を目指します。

【写真③の様子】



団体概要

団体名　NPO法人山形県リサイクルポート情報センター

代表者　理事長　佐藤　清

URL　NPO法人山形県リサイクルポート情報センター（shonai-recycle.jp）

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	酒田港でのリサイクル物流の活性化（酒田港の新たなる飛躍に向けたリサイクル物流の取組み）
団体名	NPO法人山形県リサイクルポート情報センター

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	950,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	387,752	NPO法人会費
合計	1,337,752	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金		
旅費	347,478	社有車ガソリン代、ANA航空券、空港駐車料金、出張宿泊費、移動高速代、出張手当等
印刷製本費		
消耗品･材料購入費	106,644	事務所備品、コピー用紙、名刺・NPO封筒印刷代、複合機トナー代
通信運搬費	1,030	請求書・資料郵送費
保険料		
使用料	577,100	複合機・パソコンリース代、社有車リース代
人件費	300,000	NPO職員2名分
（委託費）	5,500	HP管理・セキュリティ費
（備品購入費）		
（修繕費）		
合計	1,337,752	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	特定非営利活動法人環境ネットやまがた		
事業名	家庭や事業所におけるカーボンニュートラル推進事業		
助成事業区分	団体支援助成事業		
団体の所在市町村	山形市	事業費	957,770 円
		うち助成金額	950,000 円
事業実施期間	令和７年６月１日～令和８年３月３１日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

カーボンニュートラル社会の実現には、家庭や事業所で再生可能エネルギー設備を有効的に活用し、二酸化炭素の排出量を抑えることが必要です。太陽光発電で作り出した地球にやさしいクリーンな電気を、電気自動車やV2Hも活用しながら効率よく使うことで、カーボンニュートラルの達成はもとより、光熱費の削減や災害発生時の対策にも繋がります。そのため、事業者向けのセミナーや県民向けの見学会の開催により理解を深め、太陽光発電パネルの利活用や蓄電･V2Hの導入促進に取組みました。

そして、未来を担う子どもたちを対象とした環境教室の開催や森林に親しむ（木育）活動と合わせて行い、山形県のカーボンニュートラル社会の実現を目指しました。

（実施内容）

① 再生可能エネルギー推進セミナー及び見学会の開催

太陽光発電や蓄電池、電動車（電気自動車など）の設備導入、活用に関するセミナー及び見学会を開催しました。

・セミナー：１２月２６日（火）13：30～15：30
最上広域交流センターゆめりあ（新庄市）
参加者27名
・新庄市、新庄商工会議所との共催事業として開催した。

・見学会：３月１７日（火）午後、参加者１３名

② 親子を対象とした環境・工作教室の開催

小学生の親子を対象として、再生可能エネルギーや次世代自動車に関する環境教室を開催しました。

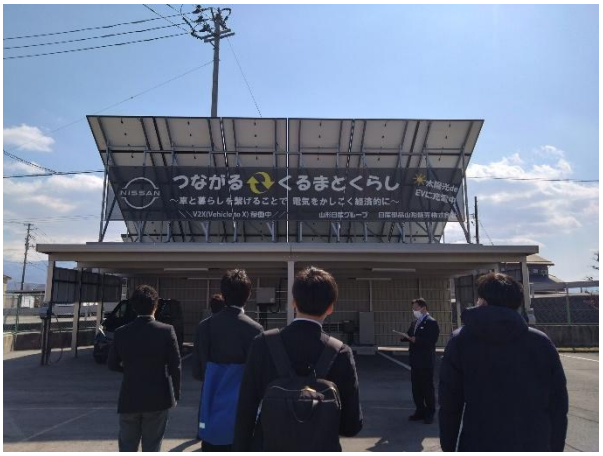
・開催日：12月6日、1月25日、3月8日、開催場所：山形県産業科学館（山形市）

③ 森林整備活動への支援及び自然素材を使った工作教室の実施

やまがた絆の森「ニッサンの森」（朝日町）をフィールドに、森づくりの大切さや森に親しむことを学ぶ（木育）ため、森林整備活動への支援や親子対象の工作教室を実施しました。

開催日：6月8日、10月13日





事業の成果	・再生可能エネルギー推進セミナー及び見学会への参加者：延べ40名 ・環境・工作教室への参加者：延べ70名 ・森林工作教室への参加者：　延べ40名 ※各事業を実施することで、カーボンニュートラル社会の実現に寄与しました。 また、官民連携での開催とすることで、地域の方々に参加いただくことができました。
今後の展望	太陽光発電や電気自動車の利活用について、導入メリットなどの理解を深めその実践者を増やしていくことで、気候変動対策に繋げました。また、官民連携により開催することで、次年度の継続的な実施への繋ぎ役となることができました。合わせて、小学生の親子を対象とした環境教室では、「カーボンニュートラル社会」を担う世代に啓発することで、2050年に向けた取り組みを進めました。今後も「カーボンニュートラルやまがた」達成に向け、団体や事業者と連携し、事業を実施していきます。







団体概要

団体名　特定非営利活動法人環境ネットやまがた
代表者　代表　河合直樹
URL　https://eny.jp/
https://www.facebook.com/kankyo.net.yamagata/
様々な情報をSNSでも発信しています！

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	家庭や事業所におけるカーボンニュートラル推進事業
団体名	特定非営利活動法人環境ネットやまがた

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	950,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	7,770	
合計	957,770	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	79,250	講師等
旅費	37,534	講師、職員
印刷製本費	220,857	チラシ作成等
消耗品･材料購入費	156,216	インク等
通信運搬費	26,621	チラシ発送
保険料	5,000	イベント保険
使用料	111,240	会場使用等
人件費	279,912	
（委託費）	39,600	
（備品購入費）		
（修繕費）		
その他	1,540	振込手数料
合計	957,770	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	特定非営利活動法人　山形県自動車公益センター		
事業名	令和７年度　環境意識啓発事業（エコカー啓発事業）		
助成事業区分	団体支援助成事業		
団体の所在市町村	山形市	事業費	３，５０１，８１０円
		うち助成金額	２，８５０，０００円
事業実施期間	令和７年　９月１２日　から　令和７年１２月　１日まで		

事業目的・実施内容	（事業目的） １００年に一度とされる自動車産業の変革により、脱炭素化に向けたＥＶ・水素・バイオ燃料ハイブリッド自動車等開発が加速しているが、製造過程でのCO^2発生問題等、課題も多い。然しながら、徐々に開発が進んでいる既存のＥＶ車や環境にやさしいハイブリッド車に加え、高度化する安全性能を備えた自動車を県民にたいし、広報を含めた普及推進を図ることにより、自動車依存度が高い山形県のクリーン環境及び交通安全に寄与することを目的とします。
	（実施内容） 「やまがた環境展２０２５」に合わせ、脱炭素化に向けた次世代自動等、環境に配慮した最新車の展示を通じ、安全性能を体験できる機会として「やまがた新車フェスティバル（１０月１８～１９日）」を開催。



【やまがた新車フェスティバル】
（会場正面アーチ／案内看板）



【やまがた新車フェスティバル】
（会場全景）

事業の成果	一世帯当たりの自動車保有台数が常にトップクラスの山形県において、登録台数は約９０万件を超えます。 そのような状況下、自動車産業界では脱炭素化へと向かうための方策の一つとして、環境配慮は基より、安全性能に優れた自動車へ乗り換えることは、より確実に環境保全に寄与できること、超高齢化社会を見据え、日常生活を営むうえで必要となる交通環境の改善など、ひいては、県内自動車販売店含め、経済の活性化・好循環へと繋がることから、イベントを通じ、県民一人ひとりとの対話・交流から多くメリットが生み出されることを強く感じるなど、大きな成果へ繋がる事業でありました。 〇来場者：３，４９２名（令和６年：４，５７３名） 〇試乗体験者数：４２７名（令和６年：４０７名）／試乗車４７台準備
今後の展望	今回は本事業に関し、初の試みとして試乗体験された方よりアンケート協力いただき、体験を通した意識変革や行動変容等、貴重な回答をいただくなど、これからに向けた新しいライフスタイルの提供ができるよう、わたくしどもも学び多き事業となりました。 改めて、県民の足・パートナーとして自動車への依存度が高い山形県において、このようなイベントを通し、県民一人ひとりとの対話・交流の必要性を実感するに至り、これからも、自然豊かな山形の環境を次世代へ継承していくことは基より、全ての県民にとって安心安全な交通環境の維持・提供とともに、交通事故防止に向けた啓発等も積極的に行い【持続可能なクルマ社会を目指し】環境に配慮されたクルマに乗り、エコドライブが当たり前となるよう、活動して参りたいと思います。





【やまがた新車フェスティバル】
（展示風景）





【やまがた新車フェスティバル】
（試乗案内/試乗体験車）





【やまがた新車フェスティバル】
（電気自動車等、普及）

団体概要

団体名　特定非営利活動法人
　　山形県自動車公益センター
代表者　代表理事　小関　眞一
URL　https://yauto-center.net/

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	令和7年度　環境意識啓発事業（エコカー啓発事業）
団体名	特定非営利活動法人　山形県自動車公益センター

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	2,850,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	651,810	
合計	3,501,810	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金		
旅費		
印刷製本費	833,100	広報物デザイン等
消耗品･材料購入費		
通信運搬費		
保険料		
使用料	1,877,920	設営部材レンタル等
人件費		
（委託費）	569,800	企画・構成・会場レイアウト等
（備品購入費）		
（修繕費）		
その他	220,990	試乗誘導・夜間警備等
合計	3,501,810	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	山形交響楽団応援県民会議		
事業名	“Music Library Project”･･･創立名誉指揮者 村川千秋の軌跡を次代に継承していく		
助成事業区分	団体支援助成事業		
団体の所在市町村	山形市	事業費	3,255,126 円
		うち助成金額	1,425,000 円
事業実施期間	令和７年９月１日～令和８年３月３１日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

＜“無”から“有”へ・・・山形の地に山形交響楽団を育んだ村川千秋＞

若き日の村川は、圧倒的な地域格差を経験する。首都圏と地方都市で享受できる体験・教育の格差。学生時代に日本を代表する指揮者近衛秀麿と出会い、音楽家を志す。東京芸大、インディアナポリスでの学びを経て、故郷山形に山形交響楽団を創設した村川千秋の足跡を辿る。

＜“全ての子供達へ本物の音楽の感動を届け続ける”・・・未来へのメッセージ＞

2025年６月25日、92歳で逝去した村川。生涯を貫いた思いは①全ての人が知識を得られる図書館のように全国にプロ楽団を作りたい②子供たちに本物音楽の感動を届けたいに集約される。この想いを受けた山形交響楽団は、未来を担う子供たちに“本物の音楽の感動”を届け続ける決意と村川のDNAを次代に継承するべく、未来に向けたメッセージを発信する事業を企画する。

＜Music Library Project・・・美を体験する美術館でのコンサートと連携＞

“図書館で知識に出会うように音楽と出会う”ことを願った村川の想いを本プロジェクトで継承していく。恒例となった山形美術館と真下記念美術館でのアンサンブルコンサートは継続。美術と音楽とのコラボレーションによって、より広い層の聴衆を拡大することで、未来の聴衆を育んでいく。

（実施内容）

① 創立名誉指揮者　村川千秋の想いを継承するコンサートを開催した。

○開催日時：2025年11月９日（日）15:00開演　　○会場：山形市民会館　大ホール

○出演：阪哲朗（山響常任指揮者／村川とは毎年５月の村山公演で共演を続けた）
　　山形交響楽団、村川千秋の薫陶を受けた教え子たち

○内容：村川の足跡を辿る映像、子供たちに愛される組曲など、事業趣旨に記載した内容を具現化して、未来へのメッセージを届ける内容とした。（来場者：1,067人）

② 山形美術館・最上川美術館で企画展等と連動したコラボコンサートを実施した。

○最上川美術館（3/7(土)、弦楽二重奏、来場者:約40人）

○山形美術館（3/20(金・祝)、弦楽四重奏、来場者:約100人）

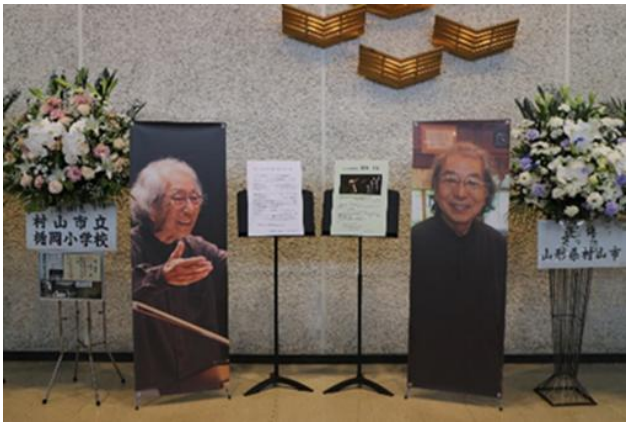


3/7「最上川美術館」（村山市）



3/20「山形美術館」（山形市）

事業の成果	＜山形の文化芸術を育み、村川が蒔いた種がより大きな実を実らせていく＞ 　今回の事業を通じて、日本で最も小さな都市を拠点にする山形交響楽団の存在感をあらためて県民と共有。無から有を生み出した村川の想いを継承していくことで300万人の子ども達が体験したスクールコンサートの持続など、未来に繋がる想いを継承していく機会となった。 （数値目標）〇演奏会入場者数1,200人 （オーケストラ1公演+アンサンブル活動2公演合計） ＊村川千秋が指揮した公演の映像配信も別途行う予定：視聴者1万人以上を想定＊ （実績）〇演奏会入場者数　1,207人（オーケストラ１公演＋アンサンブル活動２公演合計）となり、目標を達成することができた。
今後の展望	村川は常に「100年後」を視野に入れていた。創立50周年記念公演では“100年存続しないと盤石とはいえない”と語り、山響が県民の誇りとなり、世界に羽ばたかせる夢を抱き続けた。上述のビジョンに基づき、海外交流、海外発信（欧州プラットフォームと契約済み）などを積極的に推進していく。



正面入口ロビーに村川千秋氏の拡大写真を展示


村川氏が最も力を注いだシベリウス作品の演奏


多くのお客様が村川千秋の軌跡をご覧になりました

団体概要

団体名　山形交響楽団応援県民会議
代表者　会長　矢野　秀弥

★山形交響楽団の演奏会日程や最新情報はＨＰをご覧ください。
URL　http://www.yamakyo.or.jp

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	“Music Library Project”･･･創立名誉指揮者 村川千秋の軌跡を次代に継承していく
団体名	山形交響楽団応援県民会議

１ 収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	1,425,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	969,000	@1,000円×969人
その他収入	861,126	山響
自己資金		
合計	3,255,126	

２ 支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	33,411	司会謝礼
旅費	86,430	指揮者・出演者旅費
印刷製本費	295,058	チラシ、プログラム作成・印刷、掲示写真印刷
消耗品･材料購入費		
通信運搬費	22,330	招待状、案内状送付
保険料		
使用料	272,390	会場使用料、スクリーン・プロジェクター使用料等
人件費		
(委託費)	286,300	広告掲載、映像編集、会場整理員委託
(備品購入費)		
(修繕費)		
その他	2,259,207	山響出演料、助演者出演料、販売手数料
合計	3,255,126	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	認定特定非営利活動法人 With 優		
事業名	トークイベント「With 優から踏み出して　～君だけじゃないよ～　」		
助成事業区分	団体支援助成事業		
団体の所在市町村	米沢市	事業費	９５,１８０円
		うち助成金額	９５,０００円
事業実施期間	令和７年８月２９日～令和７年１２月３１日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）
当法人で運営するフリースクール事業や就労支援事業で関わる若者の中には、様々な家庭環境や生い立ちにより、社会へ一歩踏み出せず、悩みを抱える若者が多い現状がある。本事業では、フリースクールや就労支援事業を経て、現在社会に出て活動している若者からのリアルな体験談を聞くことで、悩みを持つ若者が未来を前向きに想像できるきっかけづくりをおこなった。

（実施内容）
〇日時：2025年11月22日(土)　14：30～16：00
〇場所：置賜総合文化センター（米沢市）
フリースクールを卒業した生徒や就労支援を経て就労に結び付いた若者3名を講師に招き、社会に一歩踏み出せるようになるまでどのように過ごし、どのように進路を選択したのか等、話をうかがった。前半は講師からの話を中心に、後半は来場者からの質問に答えていただく形をとった。参加者には、現在悩みを関わる若者とその家族、教育関係者、行政職員等、多くの方に足を運んでいただいた。
質問の内容で多かったことは、
・「自身の状況を変えようと思ったきっかけは何でしたか？」
・「（引きこもりの子どもを持つ保護者の方や学校関係者から）過去の自身を振り返った時、どのようなアプローチや支援があれば、良かったなと感じるか？」
・「兄弟（姉妹）はいますか？兄弟（姉妹）も引きこもりや不登校ですか？」
など、自身が変わったきっかけや変われた支援方法、家族にも不登校や引きこもりがいるか等を問う質問だった。

終了後のアンケートには、
・「当事者だった人の貴重なお話を聞けて良かったです。またこのようなイベントを聞ける機会があれば、また聞きたいので、よろしくお願いいたします。」
・「沢山の方の前でお話しできる強さと、次の世代へのエールを感じました。貴重な機会をありがとうございました！」

	・「私自身もずっと生きづらさと戦って生きてきました。ですが、皆さんのお話を聞いて、なんだかすごく救われました。」 ・「（不登校のお子さんを持つ保護者の方から）貴重な体験のお話を聞くことができて良かったです。息子が前向きに考えられるきっかけになればと感じました。」 ・「（不登校支援に関わる方から）不登校の子ども達と接する仕事をしています。毎日、どのような接し方をしてよいか戸惑いの連続ですが、皆さんの話を聞いて、自分なりにトライ＆エラーで頑張ってみようと思いました。ありがとうございました。」 などの声があった。

事業の成果	トークイベント参加者数は73名であった。参加者には、現在悩みを抱える若者やその家族、教育関係者、行政職員等、様々な立場の方にご参加いただいた。より多くの方に周知するため、チラシ・SNSだけでなく、市民の方の目につきやすい市報への掲載、地域の小・中・高校に直接お知らせする等を実施した。 また、イベントに参加したことがきっかけで、当法人のフリースクールに入学した子どもや、問い合わせのあった家庭が複数件あった。
今後の展望	他機関と連携して実施する等、イベントを通して具体的な相談や支援等をイメージできるような企画も検討していく。







団体概要

団体名　認定特定非営利活動法人With優
代表者　白石祥和
URL　https://www.with-yu.net/
（特非）Ｗｉｔｈ優は地域のどんな子どもも大人も居場所と役割を持ち、生き生きと生き抜ける社会を目指して活動しています。

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	トークイベント「With優から踏み出して　～君だけじゃないよ～　」
団体名	認定特定非営利活動法人With優

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	95,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	180	
合計	95,180	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	30,000	講師謝金　10,000円×3名
旅費		
印刷製本費	44,000	チラシ1,000枚
消耗品・材料購入費		
通信運搬費		
保険料		
使用料	13,180	施設借用、備品借用
人件費	8,000	スタッフ人件費
（委託費）		
（備品購入費）		
（修繕費）		
合計	95,180	